

平成29年度 第1回 石巻地域産業人材育成・定着推進会議
参加者発言要旨及び意見交換等概要

開催日時：平成29年9月25日（月）午後2時～
開催場所：宮城県石巻合同庁舎 5階大会議室

1 会議の趣旨（座長）

「石巻地域産業人材育成プラットフォーム会議」の部会として、石巻地域の学生・生徒の「産業人材としての育成」、「地元企業による雇用」、「就職後の定着」に向けた具体的な取組を検討するため開催。本日は、本年10月6日（金）開催予定の「プラットフォーム会議」（以下、「親会議」）に向け、各機関の今年度の取組について情報共有・意見交換を行うもの。

2 出席者

【産業】

東松島市商工会	経営支援課長	相澤 義広
石巻信用金庫	常務理事	小幡 一雄
管内民間企業	役員	

【教育】

宮城県石巻好文館高等学校	教諭	奥山 礼一郎
宮城県石巻商業高等学校	教諭	鈴木 治
宮城県石巻北高等学校	教諭	山本 浩人
宮城県石巻北高等学校飯野川校	教諭	大橋 孝幸
宮城県水産高等学校	主幹教諭	鈴木 秀一
宮城県石巻西高等学校	教諭	小井土 光平
宮城県東松島市高等学校	連携コーディネーター	本木 由紀子
石巻市立桜坂高等学校	教諭	小山 信
宮城県立支援学校女川高等学園	教諭	鈴木 瑞穂

【行政】

石巻公共職業安定所	統括職業指導官	後藤 慶志
石巻市産業部商工課	主任主事	関 善人
東松島市産業部商工観光課	商工政策班長	五ノ井 勝浩
女川町産業振興課	商工労働係長	木村 利基
	商工労働係 主事	柴垣 聡美
宮城県教育庁高校教育課キャリア教育班	主任主査（指導主事）	太田 祐一
宮城県東部教育事務所	次長（社会教育主事）	熊谷 賢治
【事務局】宮城県東部地方振興事務所	【座長】地方振興部長	佐藤 健二
	地方振興部 次長（総括担当）	千葉 啓嗣
	商工・振興第一班 次長兼企画員（班長）	遠藤 佳貴
	【担当】主査	半田 純

【オブザーバー】

沿岸地域就職サポートセンター事業	石巻サポートセンター プロジェクトマネージャー	片山 真平
宮城県経済商工観光部産業人材対策課キャリア教育推進事業事務局	一般社団法人 ISHINOMAKI2.0	斉藤 誠太郎

3 参加者発言要旨

報告事項（1） 平成29年度石巻地域産業人材育成プラットフォームの取組について（事務局）

平成29年度「石巻地域産業人材育成プラットフォーム」の取組の4本の柱立てについて、取組状況と今後の予定を報告。

「1 人材育成・雇用・定着に関する情報共有と取組の充実」

- ・ 会議を通じ、各機関の取組を共有し、取組充実を図るもの。本日が今年度第1回目の部会、10月6日に今年度第1回目の親会議を開催。
- ・ 今後の予定：来年1月に第2回目の部会、来年2～3月に第2回目の親会議を開催予定。

「2 地域一体となった職業体験等、産業人材育成の取組の推進」

- (1) 協力企業・団体等と学校のマッチング推進
 - ・ 地元企業・団体等における職場体験学習の受入体制等を掲載した冊子「産業人材育成・定着協働者ガイド」（事務局作成）により、職場体験学習を希望する高校・大学と受入企業等の円滑なマッチングを支援する取組。同ガイドの掲載事業所を108事業所（平成29年3月末現在）から123事業所（同9月末現在）まで拡充。また、6月～9月にかけて、延べ4校に同ガイド掲載事業所等から社会人講師を派遣。
 - ・ 今後の予定：同ガイド掲載事業所を更に拡充（140事業所目標）し、事業所と学校のマッチングを今後も推進。
- (2) インターンシップ活動の充実
 - ・ 「石巻地域版インターンシップに関するガイドライン」に基づくインターンシップ活動を促進。（事業所・学校が事前にインターンシップについて計画を立て、体験内容等を協議して実施、事後に成果報告会を実施し活動の充実を図るもの。）
 - ・ また、同ガイドラインに基づきインターンシップを実施した高校の実例や、宮城県東部地方振興事務所で高校生と大学生のインターンシップを受け入れた実例を紹介。
 - ・ 今後の予定：紹介事例以外の高校等への石巻地域版インターンシップ活動の実施呼びかけや、「ガイド」掲載事業所のうち受入を実施していない事業所への今後の受入を呼びかけ。

「3 企業と生徒・学生が接する場の提供等、地元就職の促進」

- (1) 宮城労働局・石巻公共職業安定所・宮城県主催の合同企業説明会等の開催
 - ・ 地域の生徒・学生が、地元の企業を知る機会を設け、地元企業就職に向けた理解醸成を図るため、「高校生のための合同企業説明会」（7月11日）や、「新規高等学校卒業予定者就職面接会」（10月18日）に開催協力。
- (2) 「人材確保・育成・定着セミナー」開催
 - ・ 昨年度に引き続き、地元事業所を対象に、人材の採用・育成・定着の有効な手法を学ぶセミナーを開催。来年2月予定。
- (3) 小中学生の産業学習旅行「しごと発見ツアー」
 - ・ 地元の児童・生徒が、地元の産業現場を訪問し理解を深めることで、地域の将来を担う人材の育成につなげるため、東松島市（8月8日）、女川町（8月10日）で小中学生の「しごと発見ツアー」を開催。地元企業・施設の見学、作業体験等。
 - ・ 今後の予定：石巻市でも小中学生の「しごと発見ツアー」開催予定（11月）。石巻専修大学、商工会議所・商工会、各市町の協力を得ながら、地域の児童・生徒が地域の産業を学ぶための「産業学習マップ」及び「産業学習ハンドブック」を作成予定。（平成30年2月完成目途）

「4 就職後の地元定着応援」

- (1) 高校生対象「声出し・話し方」セミナー開催
 - ・ 初歩的なあいさつを含めたコミュニケーション能力の向上により、就職後の職場定着を促進するもの。7月に1校で開催。
 - ・ 今後の予定：年度内にもう1校で開催予定。
- (2) 「新入社員・職員研修会」開催
 - ・ 地域の事業所の従業員の地元定着を支援するため、商工会議所・商工会と共催し、研修の自主開催が困難な事業所等を対象に新入社員・職員研修会を開催。（6月27日開催。30事業所・48名参加）
 - ・ 今後の予定：来年度も継続開催の予定。

報告事項(2) 石巻地域の雇用情勢及び平成29年度の各機関における産業人材育成・雇用・定着の取組について

出席各機関から、平成29年度の取組について報告。

① 石巻地域の雇用情勢と石巻公共職業安定所の取組について(石巻公共職業安定所)

- ・ ハローワーク石巻管内の雇用情勢(平成29年7月)について。有効求人倍率は1.81倍で、ハローワーク大和に次いで県内2位の高さ。近年高倍率で推移。特に昨年11月～今年1月までは2倍超となった。年末は、年度末に向けて求人が活発化する一方、求職者が就職活動を終えるため高倍率となる傾向。業種別では建設、介護、水産加工が2～3倍と高倍率。
- ・ 高校生の求職定状況(平成29年7月)について。来春卒業予定の高校生の求職者は490名。卒業生の3割程度と見込む。うち管内求職が289名、県内他管内求職が132名(うち仙台は74名)。管内のみの求人倍率は2.59倍。近年は内定が早まっており、冬場までには90%、卒業までにはほぼ100%が内定。年々、求人の出だしは早まっており、業種別の求人数では製造業が最多、次いで医療・福祉、建設、卸売業・小売業の順。事業所規模は99人以下のところほとんど。
- ・ 今年度のハローワークの取組について。7月11日の合同企業説明会には近年になく多数の生徒が参加。10月18日には新規高卒者合同就職面接会を開催。50社程度の企業参加を見込む。

② 石巻専修大学の取組について(石巻専修大学:欠席につき事務局から報告)

- ・ 学生の進路状況と大学の進路支援の取組について。平成30年3月卒業予定者295名のうち就職希望者は250名(卒業生の84.7%)、うち公務員を除く民間就職希望者は223名(卒業生の75.6%)。
- ・ 就職希望者の内定(内々定)率は8月末現在で67.2%、民間企業希望者のみでは74.9%。過去の内定率と比較して非常に高い数字。
- ・ 県内・石巻地域への就職状況。過去5年ほどは、就職者の4割強が県内就職。石巻地域への就職は例年1割程度。
- ・ 今年度の就職支援の取組について。2年生対象はキャリアデザインについての講義、企業見学、企業経営者によるセミナー。3年生対象は、履歴書作成や筆記試験対策、業界研究や自己分析、面接対策など、実践的な内容。夏季休暇中にインターンシップの実施、冬になると就職対策の合宿研修、企業のエントリーが開始される3月には大学主催の合同企業説明会を実施。
- ・ 続いて、今年度からの新カリキュラム「いしのまき学」について。全学部全学科の1年生対象の必修科目。入学したばかりの1年生に石巻地域を知ってもらい、4年間の学びと生活の場として活用できるようになってもらうことが目的。「石巻の歴史」「石巻の産業」「川開き祭り」をテーマに学んでいく。川開き祭りへの参加も推奨。

③ 管内高等学校の取組について(出席各高等学校)

イ 宮城県石巻好文館高等学校

- ・ 1年次に基本的な生活習慣を身につけさせ、進学希望の生徒が多いため2年次に自分がどういったことを学びたいのか考えさせ、3年次に進路指導。
- ・ 具体的には、1年次にはボランティア活動で生き方について学び、2年次で自分の興味のある事柄について研究発表を行い、3年次で進学準備、と体系立てて指導を行っている。

ロ 宮城県石巻商業高等学校

- ・ 1年次は基本的な生活習慣の確立。また、高校生活の目的意識醸成のため、外部講師による職業講話や先輩の進路実現体験を聴く会の実施、適性検査及びフォローアップ講座の実施。
- ・ 2年次はインターンシップ中心。昨年度から選択希望制にしたが9割以上の生徒がインターンシップを希望。併せて商品開発コースでは企業とコラボし商品開発講座も。

- ・ 3年次はインターンシップを活かした就職活動。卒業直前にはマナー等のフォローアップ講座も実施。

ハ 宮城県石巻北高等学校

- ・ 石巻地域で唯一の総合学科。1年次は全員共通の履修。2・3年次から5つの系列に分かれる。食農系列，家庭系列，経情系列，教養系列，進学系列。
- ・ 1年次では，系列を決定する10月まで，自分を知る，社会を知る様々な取組を実施。ひとつの決断をさせることで，将来の離職を減らしたい。これからの不確定な時代，自分を知ることで，様々な変化に対応できる人材に育成したい。
- ・ 2年次ではインターンシップ。特に女子では，事務や販売を希望する生徒が多いが，地元事業所ではそのような受入は少ない。3年次の就職段階でも同様の希望は多いが，生徒のほとんどは地元志向。地元に残りたいのであれば，ある仕事を好きになるよう指導。今後地元企業，各機関と連携し，生徒にとっても納得のいく，離職を防ぐ進路指導をしていきたい。

ニ 宮城県石巻北高等学校飯野川校

- ・ 4年卒業の昼間の定時制。三年で卒業できるシステムがあり，インターンシップや石巻高等技術専門校での実習が単位認定され，進路と結びつく。
- ・ 今年度から「ステップアップインターンシップ」を導入。就労に支障を来している生徒に対する支援は全国的に手薄（産官の皆様には支援をお願いしたい）。こうした生徒たちの就職・進学の資質を高めていくシステムを作れないかと思い，開始した取組。
- ・ 三修制のインターンシップ（4日間）のほかに，様々なタイプ別のインターンシップを実施。また，石巻NOTEと連携したソーシャルスキルトレーニング，石巻サポートセンターと連携した面接指導（東部地方振興事務所の「声出し・話し方」セミナーとも一連の取組として効果促進），石巻サポートステーションと連携した就職ガイダンス・職場体験等，各機関の協力を得ながら実施。こうした各団体にも情報提供を。

ホ 宮城県水産高等学校

- ・ 1年生は地元企業の見学による水産業界の理解。キャリアセミナーによる生き方，考え方の学習。
- ・ 2年生は類型（航海・機関・生物環境・フードビジネス・調理）ごとに3日間インターンシップを実施（女川の定置網漁や石巻の海上保安庁，地元水産加工業者・養殖事業者）。見学実習として，石巻港でのカツオ水揚げ状況等。
- ・ 3年生は石巻商工会議所の協力を得て模擬面接，希望進路に合わせて業界から社会人講師を招き求める人材像や業界の状況についてお話を聞く進路講話，応募書類作成や面接について指導を行う就職達成セミナー等を実施。

ヘ 宮城県石巻西高等学校

- ・ 進学希望者が多い。1年生で自分という人間を知る。自分に合った職業についても考え，職業観を育成。
- ・ 2年生ではそれを外に表現することをテーマに，生徒がお互いに面接官・受験生役となって自己PRを行うなど，自分のことを表現する。
- ・ 3年生では，外の世界・社会を知るということで，社会の問題を自分の身近な事柄に置き換え，自分が取り組んできたことを踏まえて表現する。国際教育にも力を入れており，海外との交流も盛ん。自分が世界の中でどのように活躍していくかを考えさせる指導も。

ト 宮城県東松島高等学校

- ・ 6月に進路ガイダンス。職業別の分科会と進路全般の講演を実施。また，校内で進路学習会，就職に向けて高卒の求人票の見方，いまずべきことや就職までの流れなどの学習会を実施。
- ・ 今後は11月に進路講話として職業観育成講座を予定。12月に様々な職種の社会人を招聘してキャリアセミナーを予定。
- ・ 昼夜間開講の三部制であるため進路行事も同じ内容で必ず午前・午後の2回実施。今年の

各種取組状況を踏まえて来年度見直しを予定。

チ 石巻市立桜坂高等学校

- ・ 進学希望の生徒もいずれは就職するとの考えの下、1年生から社会人講話や、地元商店街の店主からお話を伺いポスターを作成する「まちなかポスタープロジェクト」等の取組を実施。石巻専修大学の見学会も予定。
- ・ 2年生では市内の事業所で体験学習「さくらプロジェクト」を中心に取組。単なる就業体験ではなく、従業員や経営者のインタビューを行い、地元事業所を知る機会としている。実施後は1年生や受入事業所への発表会も開催。
- ・ 3年生は夏休み前に市役所プロジェクト。石巻市役所の8課に協力いただき、市内の課題について高校生目線で解決策を模索。
- ・ まちなかを知り、産業を知り、政治・経済・地元自治体を知る、と3年間で学びを重ねることにより就職に結びつけ、「高校生から、すてきな女性へ」という目標を目指す。

リ 宮城県立支援学校女川高等学園

- ・ 平成28年4月開校。軽度の知的障害の生徒が通う支援学校、県内3校目の高等学園。特徴は二点。
- ・ 特徴1：1科3コース制を採用。産業技術科に①食品製造コース、②福祉コース、③サービスコースを設置。①では食品加工ライン等への就職を目指す、②では居宅介護初任者研修修了証を取得可能、③ではビルメンテナンス・オフィスワーク・接客（今月カフェをオープン）といった幅広い職種への就職を目指す。
- ・ 特徴2：寄宿舎を併設。3年間の義務入寮は県内で本校のみ。生活上の自立にも注力し、社宅やアパートからの通勤も可能とすることで就職の選択肢を広げる。
- ・ 進路指導としては各学年で現場実習を年2回実施（6月及び10月に各3週間）。1年生では6月に女川町内、10月に地域内希望職種で実施。2・3年生では希望する職種・地域で実施。その他、学校及び校外近隣の現場でも短期実習を行うデュアルシステム学習も。

④ 管内小・中学校の取組について（宮城県東部教育事務所）

- ・ 県では今年度、向こう10年間の「第2期宮城県教育振興基本計画」を策定。これに基づく教育事務所の取組について。
- ・ 学校教育として、「志教育」の推進。キャリア教育を通じて子どもたちがより良い生き方を主体的に求めるようにしていこうという取組。石巻地域では、校種を越えた取組、小中連携、中高連携、これまで非常に少なかった小高連携も推進。
- ・ 社会教育の取組として、家庭・地域・学校による協働教育の推進。学校だけでなく、家庭や、企業を含めた地域で子どもたちを育てていく取組。子どもたちの古里を愛する心を育てる。また、幼稚園教育にも関わっており、今年度は稲井幼稚園で金銭教育を実施。
- ・ 高校のように企業と直接関わる機会は少ないが、その基礎を育む。

⑤ 各機関の取組について（各機関）

イ 民間企業

- ・ 高校新卒者の定着は大きな課題。業務に必要な資質が醸成されていくうちに、1年くらいで「ほかにいこう」と離職されてしまうことが多い。
- ・ 定着の取組について。採用直後は一人ひとりに若手従業員を指導役として付け、月1回報告書を提出させる。わからないことをすぐに聞ける環境を作る。
- ・ 家庭の協力も不可欠。採用1年目では、親を招待してランチミーティングを実施。子の業務内容を理解してもらおう。
- ・ 少し年数が経ってからはセクションを越えたミーティングで悩みを共有。ただし人手不足により安定開催できていない。
- ・ ストレスチェックを行い、産業医とともに、若手従業員の話を手早く聞くスタッフを配置し、心置きなく相談できる体制を確立。

- ・ 定着には目標が重要。県外同業者に研修派遣し、尊敬できる人を見つけて目標とする。研修は本人の希望・申請により派遣するが、異なるセクションに派遣し新たな発見をさせることも。
- ・ このように各種取組を行っているが、定着は難しい。離職した従業員は仕事をする覚悟ができていなかった印象。また、親の理解も得られなかった。小さい頃から地域の産業を学ぶ機会を設けたり、本人だけでなく背後にある親等についてもよく調べることが必要。
- ・ 障害者も雇用。自立性を養う女川高等学園の取組は素晴らしい。
- ・ 縁があって入社した多種多様な人材をできるだけ長期雇用したいが、難しいのが現状。

ロ 石巻信用金庫

- ・ 金融機関の立場から、人材の雇用・定着の前提となる産業の育成・振興の観点から4つの取組を紹介。
- ・ 企業家の支援・育成事業「いしのまきイノベーション企業家塾」。平成26年度開講、今年で4年目。昨年度までに70名の卒業生を輩出。今年度からは新たに東松島市・女川町も共催となり、塾生は過去最多の29名。6月から11月まで計13回開催。
- ・ 取引先の若手経営者による交流を通じた経営力向上事業「石巻しんきん経営塾」。現在の塾生は51名。企業視察・講演会・勉強会等、意欲的に活動。平成19年創設。
- ・ 石巻専修大学との連携事業「ISプロジェクト」。平成19年に連携協定締結。研究費の贈呈、産学金連携コーディネータ認定研修の開催、大学と連携して企業の悩み相談に応じる「産学金連携窓口」の設置等。
- ・ 主に小学生対象の金融教育・社会見学を実施する「しんきんマネースクール」。子どもたちの金融知識の習得やお金の大切さの学びをサポート。

ハ 宮城県立石巻高等技術専門校（欠席につき事務局から報告）

- ・ 平成29年度の職業訓練実施計画と、平成28年度の実績として修了者の就職等の状況について。
- ・ 高卒者程度の方々を対象とした1～2年間の訓練課程として、自動車整備科、金属加工科、木工科の3つの訓練科。自動車整備科は定員に対して1.5倍の応募。金属加工科・木工科はいずれも定員割れの状況。就職率は100%、ほとんどが県内就職。
- ・ 普通課程以外の短期課程（溶接科・配管科）は利転職者対象の3～6か月の課程。いずれも応募者が少なく、年齢等がネックとなり就職がスムーズにいかない場合も。
- ・ このほか、民間教育訓練機関に委託して行う委託訓練も実施。応募者は減少傾向で、中止になるケースも。就職率は70～80%でアルバイトが多い。
- ・ 人手不足の事業所が多い中、基本技能を身につけた本校修了生は有用と考える。地域の雇用のためにも本校入校生確保が必要であり、様々な機会を捉えてPRに努めたい。

意見交換

（東松島市商工会）

6月27日開催の「新入社員・職員研修会」について。当商工会も会員への周知に協力。単独では研修会の実施が難しい小規模事業者が多い。このような機会を設けてもらい大変ありがたかった、今後とも継続して欲しいとの声が寄せられているので、よろしくお願ひしたい。

（座長）

他の事業所とのネットワークづくり、仲間づくりにもつながったとの声は我々も伺っていたところ。今後の継続・事業展開について検討していきたい。

本日出席の民間企業から、様々な取組を行ってもなお従業員の定着が難しいとお話があった。せっかく管内の高校の先生にお越しいただいているので、何か御意見等あれば伺いたい。

（民間企業）

離職者はいずれもやりたいことがあり、インターンシップも経験して、良い状況で入社したが、

夢と現実のギャップが明確になり離職してしまった。そのようなとき、相談できる先が事業所だけでなく、卒業した学校にもあれば良いと感じる。

最近の学校教育では、実務の世界のことをしっかり指導している。以前は当社の育成プログラムについてこられない新入社員がいたが、最近はいない。今の学校の教育は充実しているのだと感じる。だからこそ、夢を叶えたいというとき、事業所だけでなく学校からのサポートが欲しい。

(座長)

御意見ありがとうございました。

本日お示しした資料等は、基本的に同内容を10月6日の本会議に提示して各機関で情報共有させていただく。また、本日頂戴した意見をもとに、年度後半に向けた事業の円滑な進捗に努めてまいりたい。

その他

(宮城県経済商工観光部産業人材対策課キャリア教育推進事業事務局 (ISHINOMAKI2.0))

当法人は、教育事業等を実施している民間団体。平成29年2月に「教育シンポジウム」を開催。地域と学校で連携して生徒を育成していこうというコンセプトで、NPO・教育・行政等の関係機関が参集し、地域でどのような人材をどのように育てるかを考えた。

来年2月にも開催予定。地元産業界の皆様にも参加いただき、活発に議論し、互いの取組を知り、一緒に取り組んでいく想いを共にしていく場としたい。ぜひ参加いただきたい。

(石巻サポートセンター)

県雇用対策課の就職支援事業を受託。求人情報誌「しごとかわらばん」を発行、各所に設置しているほか、各種就労支援の取組を実施。今年度は地域の高校を対象に模擬面接・自己分析講座等も実施している。引き続き、高校からの就職支援ニーズや、卒業後の離職に関する相談等あれば伴走型の支援を行っていくのでお声掛けいただきたい。

(事務局)

今後の日程について。来年1月に今年度第2回目の部会、来年2～3月に今年度2回目の親会議を開催予定。引き続き御協力をお願いしたい。

(座長)

本日は長時間に渡る御協力ありがとうございました。以上で会議を終了します。

以上